

愛知・川の会 10年のあゆみ

近藤 朗

愛知・川の会共同代表

平成15年3月18日、名古屋市内において日本河川協会支部設立総会が開催され、その場での参加者の投票により「愛知・川の会」の名称が決定、これが当会の誕生となります。この時より実に10年もの月日を経たわけですが、この機会に、今までの愛知・川の会の活動の歩みを少し振り返ってみたいと思います。

設立当時の河川を取りまく状況とは言いますと、愛知県は平成12年9月に東海豪雨に見舞われ、名古屋市を始めとして県内各地の河川で甚大な被害が発生、庄内川、新川などで、いわゆる激特事業を本格的に展開しているところでした。事業の実施に当たっては新川・庄内川の河口にある藤前干潟の保全問題に直面し、多くの市民団体の方々や学識者と共に干潟調査会を組織しモニタリング、検討、調整を図りながら進めるといふ新しい取り組みを始めていました。その藤前干潟が激特事業中にラムサール条約に登録されたのが平成14年11月18日で、愛知・川の会発足の4か月前のことでした。



東海豪雨で破壊した新川 2000年9月

さらに、平成17年(2005年)の愛知万博開催に向けての準備が着々と進められていた時期でもあり、この開催地計画も当初主会場としていた海上の森(瀬戸市)の開発と保全をめぐる様々な議論と運動が起こり、大幅な会場変更により決着しました。このいわゆる「愛・地球博」の主要なテーマが、自然の叡智と市民参加でした。

■ さまざまな講演会、シンポジウム等の開催

設立総会では、日本河川協会に協力をいただいて、第58回の河川文化を語る会を併せて開催しました。写真家竹内敏信氏の講演で、同氏の美しい写真(スライド)を用いた「日本の自然と河川のあり方」をテーマとしました。景観法が制定されたのは、その後の平成16年のことです。当会では、河川文化を語る会をもう一回開催しており、平成22年10月に生物多様性条約

第10回締約国会議、いわゆるCOP10が愛知・名古屋で開催されることを踏まえ、平成21年8月に第135回を、東京大学の鷲谷いづみ教授をお招きして「川の氾濫原と生物多様性」をテーマとした講演と熱心な意見交換を行っています。

さらにCOP10開催年の平成22年年11月には近年深刻な問題となっている外来種問題を取り上げ、「水辺生態系と外来種シンポジウム」を実施しました。基調講演を滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹博士にお願いするとともに、愛知県内のいくつかの事例発表、およびパネルディスカッションを展開しました。

また平成23年3月に発生した東日本大震災は、河川管理においても多くの課題を提起しましたが、私たちはどのように向き合うべきかを議論するために、新潟大学名誉教授の大熊孝氏を招き、「川の本質と治水のあり方」をテーマに河川セミナーを開催したところでした。愛知・川の会10年間の講演会実施は、前記の他に総会、活動発表交流会などを含め20回に及びました。

【愛知・川の会関連講演会、シンポジウム、セミナー】

開催日	講師	テーマ
H15/3/18	河川文化	竹内敏信 「日本の自然と河川のあり方」
H15/11/8	交流会	長谷場昌彦(語り部) 「伊勢湾台風」
H16/5/20	【総会】	松尾直規(中部大学教授) 総会記念講演
H17/6/7	【総会】	日比野友亮×飯尾歩 「川魚文化」対談
H18/3/4	交流会	森誠一(岐阜経済大学) 「淡水生態系の多様性」
H18/5/23	【総会】	海野修二(河川課長) 「愛知県の河川行政」
H19/3/3	交流会	阿部夏丸(作家) 「雑魚の目で見えた人と川」
H19/5/15	【総会】	保屋野初子(ジャーナリスト) 「川の再自然化」
H20/3/8	交流会	赤木右(九州大学) 「陸上職物/河川水」
H20/5/22	【総会】	清野聡子(東京大学) 「中部の水循環」
H21/5/19	【総会】	谷口義則(名城大学) 河川再生の話題
H21/8/26	河川文化	鷲谷いづみ 「川の氾濫原と生物多様性」
H22/5/28	【総会】	藤田佳久(愛大) 「木曾材乱伐と林業の衰退」
H22/11/7		水辺生態系と外来種シンポジウム 基調講演 中井克樹「外来種が生態系に与える影響と対策」
H23/5/26	【総会】	向井克之 「水害から大切なものを守るために」
H23/10/22	セミナー	大熊孝 「川の本質と治水のあり方」
H24/5/31	【総会】	本守真人(会長) 「百姓伝記「防水集」の今」
H24/7/20	(川の会 講演協力)	米コラド州立大学 カート・ファウシュ教授 河川生態学特別講演会
H25/3/2		愛知・川の会10周年記念講演会 沖大幹 「川と水と国土の未来を考える」
H25/5/24	【総会】	宮田昌和 「豊田市矢作川研究所」

■ 河川での交流、連携の場として

愛知県内の河川でも、実に多くの市民活動が展開されており、愛知・川の会は行政関係者だけではなく、そういった市民団体の方々も含めた新しい形での連携の組織を目指しました。そのためそれぞれの活動をよく知るための場として、設立当初の平成15年から平成19年度まで、5回の活動発表交流会を実施し

ました。特に平成16年度の第2回目以降は「笑え(ええ)川語ろう in 愛知」と題して、協働事例の課題を分科会形式で議論し、翌年そのフォローアップを実施するなどの工夫をしました。

さらに、実際に河川を歩きながら、そこで活躍している市民団体の方々と交流、意見交換を行う現地交流会を継続的に実施しており、平成18年度より実施しているエクスカージョンも含めると、10年間で22回実施しています。

【愛知・川の会で訪れた河川】

年度	現地交流会、探訪会、エクスカージョン実施河川(月/日)
H15	堀川(11/8 活動発表交流会での探訪会)
H16	朝倉川(12/18)
H17	佐奈川(10/9)、五条川(11/23)、海上の森・吉田川(1/15 探訪会)、海部郡の河川(2/11 高校生魚博士と川魚文化を巡る)
H18	蛇ヶ洞川(6/24 大山椒魚とホタル)、矢作古川(9/30) 矢作川エクスカージョン(11/12 岡崎市～豊田市)
H19	天白川(9/23)、豊川エクスカージョン(11/23 豊橋市、新城市)
H20	三重県菟川(8/2)、大山川(10/26)、庄内川エクスカージョン(11/22)
H21	音羽川(9/27)、木曾川エクスカージョン上流編(12/13)
H22	矢作川・逢妻女川(9/4)、新郷瀬川(3/13) 木曾川エクスカージョン下流編・日光川流域(1/16)
H23	堀越川・香流川(7/16)、五条川・青木川エクスカージョン(3/4)
H24	矢作川水系乙川・伊賀川エクスカージョン(9/29)

その他、愛知・川の会が中心となって、新たな連携の場を創出しました。平成17年7月に、第8回「川の日」ワークショップを唯一東京を離れ、愛知県豊田市で開催しましたが、国、愛知県、豊田市及び川の会、名古屋市水辺研究会、矢作川川会議、矢作川研究所などと現地実行委員会を立ち上げ、1年もの準備期間を経て全国の川仲間を迎える事が出来ました。さらに水シンポジウム2007in あいちでも同様の市民実行委員会を組織し、この時は伊勢・三河湾流域ネットワークと共に連携し、その役割を担いました。

■ 行政、市民連携のセンター機能をめざして

愛知・川の会の目的の一つに、行政と市民など各セクター間を繋げるセンター的な機能を掲げています。そのため4年目の平成18年より市民参加による行政懇談会を開催、中部地方整備局や愛知県河川課の協力を得て、平成24年まで7回続けてきました。平成20年度からは地方事務所との懇談会を開始、さらに会議室内での議論だけでは共有できない課題も多く、議論を深めるために第5回の平成22年度からは現地交流会(新郷瀬川、一宮建設事務所)や河川エクスカージョン(H23 五条川・青木川、H24 乙川)と組み合わせ実施しています。

行政との連携は、河川文化を語る会などの講演会や、前述の川の日ワークショップ、水シンポジウム開催でも展開しており、当会の特徴とも言えます。



H24年9月の乙川エクスカージョン・行政懇談会

■ 設立10周年を迎えて

平成24年度は、10年目の節目の年となり、5月31日に開催された総会では、本守真人会長自らが「百姓伝記～防水集の今」を講演、今に通じる高度なローテクを訴えました。9月29日の乙川エクスカージョンでは、長年にわたって実績を積み重ねてきた矢作川沿岸水質保全対策協議会(矢水協)も参加され、環境保全対策工事見学の後、愛知県西三河建設事務所と愛知県内及び地元岡崎市の市民団体を交え、行政懇談会を実施しました。さらに愛知・川の会設立10周年記念講演会「川と水と国土の未来を考える」(平成25年3月2日)を開催、東京大学沖大幹教授が水問題、治水の課題について中部地恵の具体的な問題に触れながら講演、熱心な意見交換を行いました。多くの参加者の心に深く残ったのは、沖先生が映画の台詞を引用して述べられた「出来ることではなく、しなければならないことをすべきだ」という言葉でした。



H25年3月の10周年記念講演会 沖大幹教授

■ 愛知・川の会のこれから

愛知・川の会は10年を経て転換期を迎えたとも言えます。様々な取り組みを展開して交流連携の促進など、一定の役割は果たしてきたと確信していますが、まだまだ河川での課題は多く、時代の変化と共に次のステップへと移行していくべきでしょう。今年、平成25年5月24日の総会では、五十住博之初代会長の後、8年間会長を務められた本守氏が退任し、新体制に移行することになりました。後任は私の他、10年間副会長として会を支えてきた名古屋市水辺研究会の國村恵子氏、市民技術者の井上祥一郎氏との3人で共同代表制をとります。

この総会では、当会の会員でもあり豊田市矢作川研究所の新所長になられた宮田昌和氏が「矢作川研究所のしなければならないこと」を講演、これはむろん記念講演会での沖先生の言葉を受けたタイトルです。これから「愛知・川の会がしなければならないこと」について示していくことが、私たちの責務となります。